

国立に今年も風は吹き・・・

★「春高会」へ 競技を楽しむ

2005～2006年の赤き疾風組ももう大学3年4年。また時代が一区切りついたという感がある。

インターハイとか、インカレには届かない、みな奥岡、後藤、田中のようにはなれないが、もうちょっとこの競技を楽しみたい・・・というOBも多々いるだろう。かくいう私も、日々のテストに追われながら自分なりに陸上は続けていった。

最近OBになってもインカレを狙うのは時間的につらい・・・というOBをよく見るのである。したがって「また春高会アピールしたいなあ・・・」と感じている。

- ・記録会でも地域試合でも、出る以上は「所属登録」が必要だ。
- ・大学競技部に入るのは時間的にきつい
- ・大学卒業したけどもう少し走りたい。しかし所属がわからない

というような若手OBのために「春高会」がある。名前のとおりOB会チームだ。春高と同じで何の規制もない。練習も自由、参加する大会も自由。大塚さんや教員の先輩方、竹田くん、私なども入っているOB会運営のチーム。是非、上記理由から学生連盟は入らないけど競技したいOBのみなさんお待ちしています。年に3回くらいのクラブチーム対抗戦というほどよいレベルの試合もおもしろいです。連絡は現顧問か私、管理人さんなどいずれでも可。

★どこまで速くなる？奥岡真也
話はインカレにもどそう。

春陸史において最強ハードラーは、春高記録が示すように
「大木正美」さん

<http://www.kasuriku.net/nomo/231.pdf>

「奥岡真也」の二人であるのは間違いない。



<http://www.kasuriku.net/nomo/223.pdf>

大木正美さんは、110m JHを14秒6で駆け抜け、総体では200mH（現在の400mHにあたる）で高校1年で入賞、3年で3位。400mRも5位。奥岡も110mH、400mHで関東制覇、千葉インターハイでは見事入賞を果たし「赤き疾風伝説」の起爆剤ともなった。400mRでも4位入賞。現在の東部大会記録の14秒65は5年経過しても破られる気配は無い。日中は4mの風が乱れ吹くしらこぼと競技場の、一瞬の稀な好条件をものにする幸運も見方にしての見事な記録だった。

さて今回のインカレだが、予選から14秒6、準決勝も14秒6で安定して走りぬけた。

決勝では風も回っていたようだが、最終的にわずかに追ったようだ

一位が抜けていて、二位集団に奥岡はついている。0, 1秒の差の中に3人が固まっている。右上から見ていた私には二位か四位か・・・同期の伊藤祐一郎も観戦しながら「調子がいいというので、決勝では14秒前半出ると思いました。途中まで3位かと思ったんですが・・・残念です」

4位 14秒52の自己新記録！！

二部110mH決勝

風:+0.9

順位	レーン	No.	氏名	所属	記録	コメント
1	3	132	佐藤 大志(2)	サウ ヒロユキ	青学大 神奈川	14.04
2	4	9	粟野 祐弥(3)	アヲノ ユウヤ	日体大 山形	14.32
3	8	129	牛田 朋宏(2)	ウシダ トモヒロ	青学大 愛知	14.40
4	6	410	奥岡 真也(3)	オクオカ シンヤ	東理大 埼玉	14.52
5	2	10	水野 龍彦(2)	ミスノ タツヒコ	日体大 神奈川	14.55

6	5	419	廣田 康大(4)	ヒロタ ヤスヒロ	東経大 千葉	14.56	
7	7	11	吉村 健吾(1)	ヨシムラ ケンゴ	日体大 愛知	14.63	
8	1	551	武井 隼児(4)	タケイ シュンゾ	群大 群馬	14.78	



「うわあ・・・奥岡また記録伸ばした・・・！！」

高橋 大は「これで全日本インカレ標準突破ですかね・・・いやあ・・・ホントにここ一番にやってくれる男ですよ！！」と感心しきり。

優勝14秒0、8位14秒8・・・というちょうどインターハイの決勝と同じくらいの非常にハイレベルな二部110mH決勝であった。

しかし、奥岡はどこまで強くなるのか・・・理系学生の3年生である。浪人もしている。まったく走らなかった年もあるのだが、彼の才能はそんな事はまるで関係なく覚醒するようだ。

理科大OBの高橋 大が言っていた。

「奥岡は(理科大に)入学するまで走ってなかったんですけど・・・やっぱ陸上やることになって・・・そしたらすぐ(走りが)戻って・・・あっというまにインカレですよ(笑)」

ではそれほどきついトレーニングを課しているのか・・・と聞くと、

「ふつうです・・・あ、でもハードリングはやってると言っていましたよ。技術はドンドンうまくなってると・・・記録が伸びているのは脚が速くなったんじゃないくて、ハードリングがうまくなったからだ・・・とっていました。」



・・・うーん・・・そんな簡単にインカレ標準記録が突破できるなら、世のたいていの学生アスリートは苦労しないだろうに・・・と今更ながら思う。

ちなみに奥岡は400mRも出場する。高橋いわく「オレは歳なんだからリレーまであてにするな。ぜったいにマイルは走れない！」と奥岡自身が主張していたらしい。高橋は大笑いしていたが、奥岡の能力をみれば誰でも両リレーに期待するのはしかたないだろう・・・

やはり天から授かった奥岡の能力は、周囲に驚きとモチベーションを与えていく運命なのかもしれない。

★連覇のかかった田中 俊

奥岡の110mHの直後に、二部100m決勝が始まった。

なんといっても田中 俊（成蹊）が、連覇をかけて挑む。

一昨年同様、アウトレーンスタート。

田中独特のフォームで飛び出す。





日体大の選手がやや先行。田中は2位か3位か

二部100m決勝

風:+2.6

順位	レーン	No.	氏名	所属	記録
1	3	2	福島 裕之(4)	日体大 三重	10.44
2	5	623	平山 大樹(4)	創価大 大阪	10.56
3	8	581	田中 俊(4)	成蹊大 埼玉	10.62

本来は一部で競う日体大の選手に、今年は田中も奥岡も苦戦したが仕方ない・・・という印象だ。

今回の男子一部100mで故障者続出。決勝では3人もの選手が肉離れ、痙攣で「歩いてゴール」という結果になった。勝負の世界は厳しい・・・

どの試合もみな、歴史ある「関東インカレ」にふさわしい重みのある素晴らしいものであった。それぞれの立場で学生はみな頑張って参加しているのだ。スタンドの熱心な声援に、爽やかな気持ちになった快晴の国立競技場であった。

筆 撮 のもと歯科

